

(別紙4)

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200946
法人名	社会福祉法人 青山里会
事業所名	小山田グループホーム たんぼぼ
所在地	三重県四日市市山田町5516-1
自己評価作成日	評価結果市町村受理

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470200946&SCD=320>

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成21年 7月 13日 (月)

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアで問題行動や言動への対応だけでなく心理社会的な面をも配慮した介護を十分行う。隣接した建物などの資源を活かしながら利用者のQOLを大切にしている

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の福祉法人、医療法人の建物が林立する同一敷地内の奥まった所に事業所がある。事業所が開設されて丸9年、管理者はじめベテラン職員に混じって、外国籍(ブラジル)の若い女性介護職員がケアにあたっている。以前この事業所で働いていた方が今はこの事業所の利用者という方がみえた。両ユニットとも和やかな雰囲気、利用者の笑顔や利用されてからの期間が長い方が多いことから事業所で安心した生活を送られているのが伺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念は果たしていると思うが、地域密着型という特性を生かせる事が実践に反映しているとは、言い難い。	掲げられている理念「自信と安心を持ち、生活できる環境づくりの支援」から地域との関わりは大切であるとの認識は管理者、職員共に共有している。来る人拒まず、来訪者にはお茶を出し接待して歓迎している。	
1	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が地域の一員として交流しているとは言えない	地域の方を招いて法人全体の行事が年間数多く開催され、そこでの交流や地域の盆踊りに参加する事業所単独でのつきあいがある。	
2		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度の課題として、いかに地域の方と交流を持ち認知症への理解や対応・困りごとの意見交換などを行うよう働きかけている。		
0	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだまだ、運営推進会議が事業運営と連動出来ていない	本年度に入り、推進会議に老人会の正副会長に参加してもらった提案があり、より地域を意識した会議を目指している。その中から、老人会としてどんなことが出来るかとの問いかけもある。	婦人会OGのボランティアや法人内で運営されている保育園との交流など推進していきたい意向であり、老人会の方との関係作りを含めて推進会議を活かした取り組みを期待する。
0	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	まだまだ、運営推進会議が事業運営と連動出来ていない	管理者は市から介護保険認定審査員を委嘱され、市へ出向くことも多い。	
1	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	折を見ては、会議やケアプランなどのカンファレンス時に身体拘束になっていないかを課題に話し合いを持っている	管理者、職員とも身体拘束の弊害をよく理解しており、玄関の施錠をしないなど利用者の人権を守る介護が実践されている。	
1		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	少しでも疑問な出来事がある際には確認と会議やケアプランなどのカンファレンス時に虐待についての話し合いを持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	0	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折を見ては、会議やケアプランなどのカンファレンス時権利擁護などの話し合いを持っている		
9	1	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時前の面接および利用時で説明をさせていただいている		
10	1	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などには家族とかかわりを持ち意見や要望などの聞き取りをさりげなくするよう指導している意見等があれば昼礼時に課題としてみんなで協議するようにしている	面会時や電話などで家族と話す機会を持ち、思いを聞くよう心がけている。家族の意見や思いは昼礼(スタッフミーティング)で職員間で話し合われ反映されている。	
11	1	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員とのコミュニケーションを図り意見や提案を発言できる環境づくりに取り組んでいる。	気がついたことはその時その場で管理者やリーダーに話すことも多く、毎日の昼礼でいろいろな意見が出されている。	
12	1	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく残業が出ないように、またサービス残業はしないように推進している		
13	0	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部とも勉強への参加については積極的に参加させていただいている		
14	1	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム協議会などの研修参加等で交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	1	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者には、事前面接からの聞き取りで作成した1週間の介護計画の提示をし、ご本人の生活スタイル観察後に正式なプランにしますということから始めている。その間にいろいろききとるよう努力している		
16	1	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、事前面接からの聞き取りで作成した1週間の介護計画の提示をし、ご本人の様子観察後に正式なプランにしますということから始めている。その間にいろいろききとる		
17	1	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記35・36を踏まえ対応している		
18	1	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の中では、週間メニュー等は決めずに各々が活動したいことを常に考え対応するようにしている		
19	1	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者主体での活動について面会時や必要であれば電話連絡している。が、そのことでスタッフと家族間でのコミュニケーション不足で負担におもわわれていることも多い事に悩んでいます。		
20	(8) 1	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いろいろな方との関係は 途切れないよう支援していくが必ず家族への確認はしている	馴染みの方が面会に来てくれたり、お墓参りがしたいなど今までの生活の延長であり支援しているが、どんなことでも先ず家族の了解を得てからが事業所の方針である。	
21	1	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全ての方が仲良くできるということは無理があるのでご本人にとって安心できる係わりが気づくことが出来るようにと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	1	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応はしておりますし、来訪していただくことも多い		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9) 1	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日の中では、週間メニュー等は決めずに各々が活動したいことを常に考え対応するようにしているケア計画で取り上げスタッフの意思一致を図っている	利用者の思いはできるだけ実現していく姿勢である。帰宅願望がある方に、バスで自宅付近まで付き添ったこともある。また食事のメニューにも苦手な物には代用の物を用意するなど配慮している。	
24	1	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必ず事前調査を行う、また家族などからもなるべく細かな情報を聞き取ることや本人から出た名前などは必ず確認するようにしている		
25	1	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の中では、週間メニュー等は決めずに各々が活動したいことを常に考え対応するようにしているケア計画で取り上げる小さな変化に対しても関心を持ち観察記録に記入している		
26	(10) 1	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各々が活動したいことを常に考え対応するようにしているケア計画で取り上げる小さな変化に対しても関心を持ち観察記録に記入しそれを資料カンファレンスを行っている	面会時に家族の希望を聞き、観察記録や昼礼での職員の意見等を踏まえ、介護支援専門員が作成している。	
27	1	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の中では、週間メニュー等は決めずに各々が活動したいことを常に考え対応するようにしているケア計画で取り上げる小さな変化に対しても関心を持ち観察記録に記入している		
28	1	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各々が活動したいことを常に考え対応するようにしているケア計画で取り上げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	1	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある美術館や梅園に日常的に行く また地域の運動会や祭りに参加している		
30	(11) 0	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時は小山田記念温泉病院や明らかな婦人科専門医院で対応するが、やむ負えない事情の場合以外は家族対応をお願いしている。	受診は基本的に家族にお願いしている。 受診するにあたり家族に事業所で記録されたバイタル、様子を知らせ、受診後、医師の所見を聞き、服薬の管理など個別ファイルに保管がされている。	
31	0	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ブラジル人スタッフで日本では有資格者とはみなされないのがケアワーカーという位置づけではあるがナースがいることで以前に比べると安心感を持ち支援ができるようになってきた		
32	1	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時には退所扱いにしているが1週間ほどの見込み入院であれば待機者へのアプローチをせずに部屋の確保をしたり、PSWとも連絡は密にとるよう心がけている		
33	(12) 1	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	大まかな話し合いをしているだけで、過去に終末期の方の対応時にはかなり細かな聞き取りを家族に行い対応していた。	利用者、家族の希望を踏まえつつ、医師の判断に従い、一人ひとり個別対応を考えており、家族や職員も共有している。	
34	1	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	近隣のナースに指導を受け講習会を行うことをしている		
35	(13) 1	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震時の対応は、訓練など行いしゅうちしている地域との協力体制については法人全体で取り組んでいる	本年3月に法人全体で地震を想定した訓練を実施した。訓練であるため、利用者には少々真剣さに欠けたところがあった。	夜は夜勤者と当直の2人体制であり、周りが系列の老健や病院がありいざと言う時の心強さはあるが、日ごろの訓練も大事であり、事業所単独での訓練もされるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気配りやケアプランカンファレンス等で議題に出し話している	各居室の鍵は利用者が持っている。居室に洗面台が設備され、トイレは居室から近くに何ヶ所かありプライバシーが保たれている。個人記録などの書類は別途保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に合わせて支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中では、週間メニュー等は決めずに各々が活動したいことを常に考え対応するようにしているケア計画で取り上げる小さな変化に対しても関心を持ち観察記録に記入している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各々に合わせて・又今までのスタイルで生活していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広告の多い中に問い新聞購入したり、食材の買い出しに2日おきに出かけるなどの工夫をしている	献立を職員と共に考えたり、食材の買出し時にチラシをみて特売品を選んだり、調理、配膳、下膳は職員と一緒にしている。食事中も隣の方の世話をしたり談笑しながらの食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時折、隣接の管理栄養士にチェックしていただく		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの誘導などは、行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気がかりな状態の場合は、個別記録にチェックすることにしてパターン・習慣の把握を行いそれをもとにカンファレンスをする	排泄のパターンを概ね把握しており、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	気がかりな状態の場合は、個別記録にチェックすることにしてパターン・習慣の把握を行いそれをもとに食事や運動を個別に行う		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日できるようにしているが、利用者や家族希望等で個別対応をその都度行っている。	毎日入浴をしている。その日の体調や希望を聞いてシャワーだけの時もある。入浴拒否の方が1名あり、家族(娘)だとOKで、家族と相談の上家族の協力を得て入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特別なことは行っていませんが、部屋とりビングへの行き来や就寝時間などの設定はしていない。しかし安眠できる支援についてはケアプランなどで実行できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録票を設けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時から入所後含め興味のあること探しは日々おこなっている。又認知症の進行に伴いその支援方法も変化させている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	私たちの支援の中でパターン化しているのは美術館・才山工芸村・食材の買い物・法人敷地内のさんぽがあります。それ以外については本人の希望を代弁し家族と相談調整している	広い敷地内での散歩や併設されている美術館へ出かけたり、買い物、地域にある才山工芸村へ出かけるなど外に出ることは多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	1	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族や本人管理としている。 本人の希望を代弁し家族と相談調整している		
51	1	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて支援しています		
52	(19) 1	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのつど季節の物を取り入れて季節感や温度調整・採光・音量などにも気をつけています。	リビングは大きな梁があり、明るく気になる臭いもなく静かな雰囲気である。壁に絵画が飾れて、ピアノが置かれている。テレビの前にはゆったりしたソファが置かれてくつろげる場所になっている。	
53	1	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特別なことは行っていませんが、部屋とリビングへの行き来は自由にでき利用者同士の行き来などについても監察はするが、管理はしません。		
54	(20) 1	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に合わせて支援しています	たんすやテレビ、中には仏壇を持ち込まれ朝夕のお勤めが日課になっている方もある。家族や思い出の写真を飾られて自分らしい思いの居室である。この度、居室の壁紙と床の改修を順次行う予定である。	
55	1	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランにも取り入れてますし、危険なものや危ないことについては全体に危険か本人にとって危険なものかによる判別を行い対応している		